

モデル経営体名：荒田 正彦（所沢市）JAいるま野さといも部会

展開：露地野菜の産地の強化に係る展開

経営概要 5.3ha（さといも：2.8ha、えだまめ：1.5ha、ほうれんそう：0.8ha、こまつな0.2ha）

導入技術 ①量産型農業用無人車R150（XAG JAPAN（株））によるさといも防除 ②R150によるさといも運搬 ③アシストスーツによる運搬



R150による防除



R150による運搬



アシストスーツによる運搬

### 実証の状況

①実証の目的：R150による防除と運搬、アシストスーツ利用による運搬の作業の効率化

②実証状況：

- ・R150による防除は、作業者が農薬に被ばくをせずかつ労働負担の軽減が出来た。農薬の付着（写真4）については慣行と同等であった。ただし慣行に比べて作業時間は多くなった（図1）。
- ・R150による運搬は、一度に6コンテナ運ぶことが出来たので、効率化ができた（図2）。軽トラックが入れない圃場では有利であることが分かった。
- ・アシストスーツの利用は、20kg以上のコンテナを運ぶような負荷が大きい場合、特に効果が高いことが確認できた（図2）。

③モデル経営体の感想：

- ・R150の能力はとて高く、防除や運搬について体への負担が大幅に削減できることを確認できた。今後は時間の削減できる利用場面や方法について検討したい。

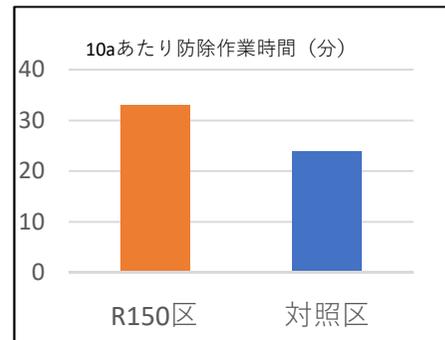


図1 R150と動力噴霧器（対象区）の防除作業時間

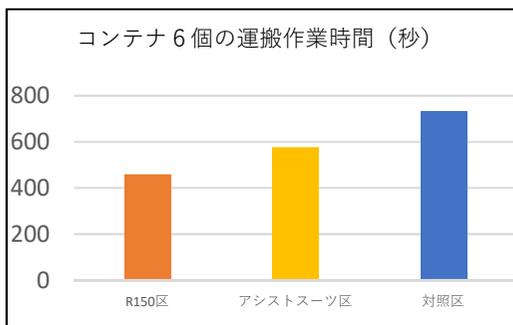


図2 R150、アシストスーツ、対照区（人力のみ）の運搬作業時間（平均50m離れた6個のコンテナ（20kg）を軽トラまで運び出した時間）

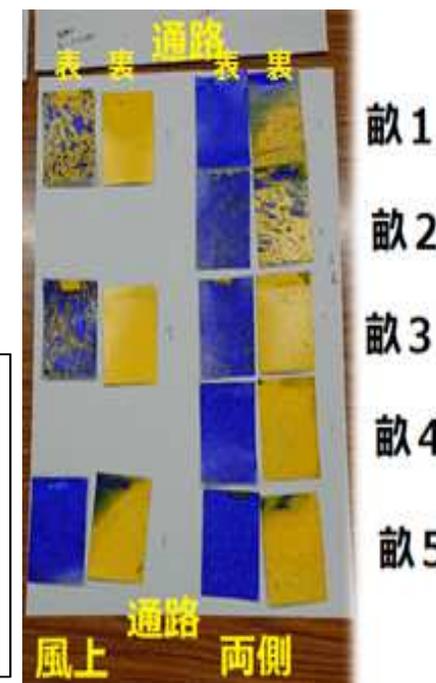


写真4 R150防除 感水紙結果